

感染症の予防のための情報提供について

病名	腸管出血性大腸菌感染症（O157）				
年齢及び性別	30代・女性	職業	無職		
住所	津市				
発病年月日	令和6年9月30日				
診断年月日	令和6年10月8日				
（患者発生の経過）					
9月30日 腹痛がみられた。					
10月1日 腹痛に加え、下痢、嘔吐の症状がみられた。					
10月2日 症状継続のため、津市内の医療機関を受診した。					
10月8日 10月2日の便検査から腸管出血性大腸菌感染症と診断された。 現在、患者は快方に向かっています。					
【防疫措置】 接触者の健康状況調査及び検便の実施（津保健所）					
【県内での腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】（四日市市保健所分を含む）					
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
患者	22	26	29	34	30
保菌者	13	11	23	23	10
計(感染者)	35	37	52	57	40
※2024年1月1日～2024年10月8日現在まで本件含む					
2024年内 患者：O157（17人）O26（1人）O103（4人）O145（1人） 型不明（7人）					
保菌者：O157（5人）O26（1人）O146（2人）型不明（2人）					
【自分でできる対策】					
1 予防の3原則					
① 加熱（菌を殺す）					
この菌は熱に弱く、75℃、1分の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けて下さい。特に子どもや高齢者は注意して下さい。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼き肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んで下さい。					
② 迅速・冷却（菌を増やさない）					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
冷蔵や冷凍の必要な食品は、持ち帰ったらすぐに冷蔵庫（10℃以下）や冷凍庫（-15℃以下）に入れましょう。					
③ 清潔（菌をつけない）					
手指や調理器具は十分に洗いましょう。					
2 暴飲暴食を避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保って下さい。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けて下さい。					